

平成 25 年度第 2 回 富山県中小企業の振興と人材の育成等に関する県民会議
(概要)

日 時 平成 25 年 11 月 5 日 (火) 13:30~15:00

場 所 県民会館 701 号室

- 議 事
- (1) 平成 24 年度富山県中小企業振興施策の実施状況について
 - (2) 最近の県の産業振興施策について
 - (3) 最近の県の人材確保・育成施策について
 - (4) 県民会議部会要旨について
 - (5) 国の中小企業振興施策等について

委員からの主な意見

- ・大企業を中心に景気が良くなっているが、下請・内需型企业に波及しているのか疑問。団塊の世代の退職時期であるが、技術の継承ができていない。人材の育成に関する支援施策を会員に周知していきたい。
- ・中小企業向けの施策の内容について周知することが課題。
- ・国のものづくり補助金では、多数採択される結果となったが、商工会議所が申請のための支援をうまく行ったためである。制度の有効活用につながる支援を行うことが大切である。
- ・新入社員の悩み相談を経営者自ら行うことが若い人の励みにもなる。
- ・起業したい人には、起業意欲を失わせることがないように、開業資金が全て行き渡るような対応をするべき。
- ・企業が物を売ることは難しく、県の展示会への出展支援等は効果があると思う。ものづくり企業の育成だけでなく、営業のアウトソーシングも考えなければならぬと思うが、商社の育成ということについて検討いただきたい。
- ・人材育成の観点から現場従業員を育てるための助成金があればいいと思う。
- ・女性や高齢者の労働力を活用することは強調されるが、男性の労働力について、派遣やパートが多くなっていることが気になる。

- ・医薬品業やロボット産業など今後さらに伸びる分野に重点的に支援することが大切。

- ・新幹線開業を控えており、産業誘致はここ数年がチャンスである。安全・安心の意識も高まっており、産業誘致に力を入れるべきである。

- ・全体の消費パイが縮小してきており、地域の商店街が厳しい状況になっている。商工会としても経営指導員の巡回の中で有意義な制度を推奨しながら、地域に役立つ商店街づくりをしていきたい。

- ・富山県は人材移出県と言われるが、Uターンの促進を図るなど地元定着を促すことが必要である。

- ・非正規雇用であっても何十年継続して働ける仕組みが必要。また、14歳の挑戦やインターンシップなどを通して、学生の時から社会の仕事を体験することが人材の育成にもつながる。

- ・商店街活性化のために店主のサービス精神を向上させるための教育が必要ではないか。

- ・景気は全般的に持ち直しつつあるが、まだ企業の設備投資には結びついていない。富山県はものづくり企業のベースがあるし、何かきっかけがあれば、浮上すると思う。